NIEもっけワークシート 下野新聞

85

小学校中学年向け

年組

（2021年10月19日付・下野新聞24面）

小川整備や幼虫育成

東武鉄道に住民ら協力

ホタルと夜汽車 競演スポットに

日光・倉ケ崎ＳＬ花畑

倉ケ崎ＳＬ花畑で整備中の小川にカワニナを放流する江田さん（右）と神長さん

【日光】倉ケ崎新田の東武鬼怒川線沿線にある倉ケ崎ＳＬ花畑で、東武鉄道（東京都墨田区）がホタルの育成に挑んでいる。ノウハウを持つ東武動物公園（埼玉県宮代町）、花畑を管理運営する地元住民グループの倉ケ崎明日を考える会、ホタルが生息する日光だいや川公園の協力を得て、小川などの環境整備や幼虫の育成などを進めている。ホタルと夜汽車の競演を楽しめる観光スポットにする計画だ。（岡田優子）

豊かな自然を活用して沿線の魅力を高めようと、ホタルの生息地づくりを始めたのは6月。ホタルを年間観賞できる東武動物公園内の施設「ほたりウム」のノウハウを投入する。

同園によると、ホタルはコケの中に産卵後30日ほどでふ化する。幼虫になると水中に入り、約9カ月後に上陸。軟らかい土の中に潜ってさなぎとなり、成虫になる。今回育成するのはゲンジボタルとヘイケボタルで、卵、幼虫、成虫の全ての段階で光を放つという。

両種とも生息できるように、花畑の中に流れの緩やかな小川を新設することにした。6月から整備を進め、長さ約100㍍、幅約50～100㌢の川を造って地下水を流した。現在は、水際のコケや小川を覆う茂みを整備したり、餌となるカワニナやタニシを集めて育成したりしている。

11～12月には幼虫の放流を予定する。日光だいや川公園や倉ケ崎周辺で採取した成虫の子ども計約600匹を東武動物公園で育成中だ。同園のホタル育成担当神長正さん（41）は「3年かけて環境を整備しながら放流を繰り返し、自生を目指す。皆さんに協力してもらい、ホタルを見せられるようにしたい」と話す。

今後は子どもたちを招き、自然についての勉強会なども開く考え。倉ケ崎明日を考える会副会長の江田明さん（66）は「子どもの頃は川の周りによく飛んでいた。ホタルが復活するのを楽しみにしている」と話した。

設　問

【1】東武鉄道と地元住民らが協力して計画していることは何ですか。リード文から書き抜きましょう。

【2】東武動物公園によると、ホタルはどう育ちますか。（　）内の①～③に当てはまる言葉を記事の中から書き抜きましょう。

（1）コケの中に産卵後、（　①　）日ほどでふ化する。

→（2）幼虫になると（　②　）に入り、約9カ月に上陸する。

→（3）軟らかい土の中に潜って（　③　）となり、やがて成虫となる。

【3】ホタルの生息地づくりとして進められている「小川整備」や「幼虫生育」について、記事の内容と合わない説明は次のうちどれですか。記号で答えましょう。

・ア　花畑の中に地下水を流して、長さ100㍍、幅約50～100㌢の小川を造った。

・イ　担当の方によると、３年かけて環境を整備しながら放流を繰り返し、自生を目指す。

・ウ　写真にはカワニナを放流する様子が写っているが、ホタルのえさとするためである。

・エ　地元で採取した成虫約600匹を動物公園で育成し、やがて花畑に放す予定である。

【4】今後は「自然についての勉強会」なども開かれる予定とあります。記事を読んで、もしあなたが勉強会に参加するとしたら、どんなことを質問したり、学んだりしたいですか。自由に書いてみましょう。

出題・監修は宇都宮市小学校教育研究会国語部会・綱川真人宇都宮大共同教育学部付属小教諭